



in Japanese



Cool Japan トークショー

司会：ドン メイ（ノース・キャロライナ州立大学）
山下 明莉（国際学部）

コメンテーター：田代 風沙（国際学部）
鈴木 雄大（法学部）
中川 優衣（法学部）



山下 明莉さん

留学生WEEK 開催！

2017年6月5日（月）～6月9日（金）

日本語教育センター通信

第29号

発表者	テーマ
ハドソン デビッド（ノース・キャロライナ大学チャペルヒル校）	だんじりまつり
ロバート リア ジーン（サンフランシスコ州立大学）	おまもり
チュー タイモシー ケンユ（クイーンズランド大学）	ガチャガチャ
クヌツン カイル（セントラルワシントン大学）	温泉
ムーア ハナ ジョイ（シアトルパシフィック大学）	電気毛布
リン エイミー シー シャン（ネバダ大学ラスベガス校）	おかし
ユン ソンヒョン（慶熙大学）	バラエティ番組
アルカラ カステージャノ サウル（アイオワ大学）	和食
チュー アンドリア ノエル（マギル大学）	みかんの種類
タク ビン（国立台湾師範大学）	神社

山下 明莉さん（国際学部）
留学生が感じた日本のクールなところってどこだろう？そのような疑問を抱きながら、私は今回初めてCOOL JAPANトークショーの司会者として参加させて頂きました。

だんじり祭りやバラエティ番組の面白さ、温泉文化や神社等、私にとって普段身近に感じていたものに対する留学生ならではの視点や発見を聞いたことで、より日本文化を客観視したり、魅力を再確認できたりしました。また、短い時間の中で一生懸命日本語で発表している姿を見て、感銘を受けました。

私は現在ドイツ語を勉強していますが、自分たちのように胸を張って発表できる

私は、日本語スピーチ発表会にLAとして参加し、留学生一人一人の個性溢れる発表に魅了されました。その点は具体的に二つあります。

一つ目は、どの学生も日本語が堪能であったことです。大変分りやすく、面白さを取り入れた話し方で聞き手を楽しませる姿は、実に頼もしく、見習う部分がありました。

二つ目は、日本に住む私も普段気付かなかったことに着目し、発表していたところでした。日本の暮らしたものの何気ないことが留学生にとっては心を動かすものであったり、新たな発見であったことに気づかされたことでした。

改めて日本の文化の魅力に気づくことができ、それと同時に異文化への関心も高まった貴重な機会となりました。



日本語スピーチ発表会

司会 1時限目：キム ヨンヒョン（経済学部）
司会 2時限目：シュワーツ ルーカス（デュッセルドルフ大学）

1時限目

発表者	テーマ
ツカ アナ マリア（ハーグ応用科学大学）	日本の食べ物
スギヤント ステファノ ヴァレンティノ（バジャジャラン大学）	日本のゴミ捨て文化
ヒルマー エリック マサイアス（ダブリン・シティ大学）	日本の生活
ジード サミュエル マーク（ゲルフ大学）	考え方の変化
ターカー カリスマ コール ギャルビー（ラ・トロブ大学）	日本の生活
ミーハン レイチェル エリザベス（ダブリン・シティ大学）	日本の魅力
チェン レイチェル アビゲイル（トロント/ビクトリア大学）	日本社会に言いたいこと
チェン イリオン イー リン（シンガポール国立大学）	「外語」
ユン ソンヒョン（慶熙大学）	日本人の市民意識
李 準熙（イ ジュンヒ）（国際学部）	留学について
蔡 雅（サイ ガンヨ）（文学部）	宝塚歌劇
リイチゲン（社会学部）	じゃんけん
鄭 煒婷（ティ ヨウティ）（国際学部）	日本人女性の化粧
クワンドンヒ（文学部）	当たり前のこと
ショウ セツタン（文学部）	SNSの利用には気をつけましょ

2時限目

発表者	テーマ
クヌツン カイル レイ（セントラルワシントン大学）	日本のおもてなし
アルアルシェイク アブドラー（経営戦略研究科）	
ベル アンナマリー マライケ（ハーグ応用科学大学）	わたしたちのプレ1生活
サークス グラントトーマス（ドレイク大学）	お酒と文化-日本とアメリカを比べて①
ティーマーマン コリン マイケル（ドレイク大学）	お酒と文化-日本とアメリカを比べて②
ローズ サラ エレノア（シアトルパシフィック大学）	日本のラーメン
ティーン ジョナサン ガドミン（ネバダ大学ラスベガス校）	まんがへの道
シェミヤチュコ バルトシュ ヤン（クラフツ経済大学）	日本のふつうの日
ロゼック ベンジャミン アレクサンダー（ダブリン・シティ大学）	留学のすずめ
クロフォード フォーシア アシュリー（カーディフ大学）	日本のびっくりしたこと
ニューサム アレクサンドラ エリザベス（ネバダ大学ラスベガス校）	漫画：昔から現在まで
レッドジュリー レイチェル ゼデス（ウェスタン・ワシントン大学）	留学にとって大切なこと
リク ブンクン（復旦大学）	お花見から考えたこと
シュウ コウ（蘇州大学）	一期一会
ソン ジャクカ（商学部）	日本の「カワイイ」
パク ビョンリョル（経済学部）	日本のパン
車 智煥（チャ ジファン）（人間福祉学部）	日本の煎茶
劉 暢（リュウ ジョウ）（文学部）	日本語を勉強した感想
リュウ シダク（経済学部）	日本の学歴社会について
リュウ ガム（商学部）	割り勘について
ワン ル（国際学部）	日本の高校生活



ラーニングアシスタント（LA）として参加して

岩崎 果菜さん（商学部）

私は、日本語スピーチ発表会にLAとして参加し、留学生一人一人の個性溢れる発表に魅了されました。その点は具体的に二つあります。

一つ目は、どの学生も日本語が堪能であったことです。大変分りやすく、面白さを取り入れた話し方で聞き手を楽しませる姿は、実に頼もしく、見習う部分がありました。

二つ目は、日本に住む私も普段気付かなかったことに着目し、発表していたところでした。日本の暮らしたものの何気ないことが留学生にとっては心を動かすものであったり、新たな発見であったことに気づかされたことでした。

改めて日本の文化の魅力に気づくことができ、それと同時に異文化への関心も高まった貴重な機会となりました。



国際社会貢献活動についての図書館展示を終えて

大野 梨花さん（総合政策学部）

留学生WEEKの図書館展示として、日本語教育基礎・日本語教育基礎演習とインドネシアでの国際社会貢献活動での経験をまとめたポスターを作成しました。現在は卒業を控えた4年生ですが、2年生の春・秋を通じて学んだ日本語教育の授業と、3年生の春学期の5ヶ月間に渡って実施したインドネシアでの教育活動の一つのポスターとして形に残すことができ、とても達成感を感じました。

わたしにとって大学生活の「日本語教育」を基軸とした活動の集大成となりました。

大学での学びを学びに留めず実践し、振り返ることはとても大切だと思います。

日本語・日本語教育の学びは、様々な場面で実践できるものであると、今も日々の生活の中で強く感じています。



祝

日本留学アワーズ入賞報告

おめでとう!



西日本地区
私立大学文系部門
受賞!!



＜授賞式に参加した阿部 美恵子先生(右)＞

日振教日本語学校教育研究大会実行委員会主催の「日本留学アワーズ」の表彰式が、8月7日に東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、本学は「西日本地区大学(文科系)部門」の入賞校として表彰状をいただきました。

日本留学アワーズは、日本留学を志す外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に2012年に始められたもので、日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先として、大学文科系、大学理工系、大学院、専門学校、大学理工学系、大学、専門学校の部門ごとに東日本、西日本の上位校各5校が選出されます。本学はこれが3回目の入賞です。

本学が上位5校に選ばれた理由の一つに、「教育の質の高さ」があげられています。留学生への日本語教育を担っている日本語教育センターとしても、受賞理由を大変うれしく思っています。

今回の入賞を励みに、今後も日本語学校の教職員の方々に留学生に勧めたい進学先であると思っていただけるように、そして入学した留学生にも本学に入学してよかったと思ってもらえるよう、さらに質の高い留学生の教育・指導や支援に取り組んでいきたいと思っています。

短期集中日本語・日本文化学習コース(5週間)実施報告



＜友禅染めを体験＞



＜広島でお好み焼きを食べました＞



＜日本語パートナーと一緒に中央芝生にて＞

のフィールド・トリップでは、留学生と日本語パートナーがともに広島と宮島を訪れ、原爆ドームや厳島神社を見学しました。広島では、目の前の鉄板で焼かれる本場のお好みやきに歓声が上がり、記念に写真を撮る姿も。夜は旅館の浴衣を着て、ライトアップされた厳島神社の散策を楽しんでいました。

修了式では、5週間は本当にあつという間だったという声が多く聞かれました。来年度は6週間プログラムとして開講予定です。ぜひみなさんも日本語パートナーとして参加してください。

このプログラムは、主に北米の協定校を対象として今年度より新たに立ち上げたプログラムです。5月22日から6月24日の5週間のスケジュールで開講しました。

プログラムには、協定校から14名の留学生が参加しました。また、関学の学部生11名も日本語パートナーとしてプログラムに参加し、学生の日本語学習をサポーターしながら、授業内外で留学生と交流を深めました。一泊二日のフィールド・トリップでは、留学生と日本語パートナーがともに広島と宮島を訪れ、原爆ドームや厳島神社を見学しました。広島では、目の前の鉄板で焼かれる本場のお好みやきに歓声が上がり、記念に写真を撮る姿も。夜は旅館の浴衣を着て、ライトアップされた厳島神社の散策を楽しんでいました。

あいうえお



日本語パートナー紹介 嶋谷 佳奈さん(商学部)

短期間ではありましたがこのプログラムを通して私はかけがえのない友人を得ることができ、このプログラムに参加して本当によかったと感じています。

何気なく使っている言葉や行動は留学生たちの「なぜ?」の対象となっていて、それを説明するのに異文化についてだけでなく、日本の文化についても改めて考えさせられる機会が多くありました。そのため難しく感じる留学生たちといると、それ以上に留學生たちといると、とても楽しかったです。



＜嶋谷 佳奈さん(左)＞

私は以前から国際交流に興味があり、参加したのは今回が初めてで、とても緊張していましたが、私たちが普段留学生たちの「なぜ?」の対象となっていて、それを説明するのに異文化についてだけでなく、日本の文化についても改めて考えさせられる機会が多くありました。そのため難しく感じる留学生たちといると、それ以上に留學生たちといると、とても楽しかったです。

短期集中日本語・日本文化学習コース(夏季)実施報告



＜プログラム参加者全員で中央芝生にて＞

短期3週間プログラムは、夏季と冬季に協定校から留学生が集まり、日本語と日本文化を体験するプログラムです。2017年の夏季プログラムは、65名の留學生が集まり、日本語パートナーを含めると総勢100名近い規模の大きなプログラムになりました。

プログラムでは日本語パートナーとの交流授業のほか、午後の時間を使って、生け花や和菓子作り、書道や居合道など、日本文化の体験クラスが開講され、日本文化を体験できるクラスとして毎回好評を得ています。今回は文化体験クラスとして、新たに宝塚歌劇が追加されました。講師によるミニレクチャー後、日本語パートナーとともに宝塚歌劇を訪れ、日本の舞台芸術に触れてもらおうというものです。一度生のステージが観たくて関学を選んだという留學生もおり、終演後には、初めて観劇したという日本語パートナーと、ともに興奮した様子で感想を話し合っていました。

日本語パートナー紹介 米田 有里さん(教育学部)



＜米田 有里さん(左)＞

私は、留学経験はおろか英語力もなかったため、最初はやっていけないかなと不安でした。それでも私が必死に伝えようとする、留學生も一生懸命に耳を傾けてくれました。コミュニケーションをとればとるほど、もっと話したいという気持ちが強くなり、気が付けば留學生たちの日本語も私の英語も上達していました。

3週間という非常に短い時間ではありましたが、その分濃密な時間でもありました。このプログラムのなかで、大切な友人との思い出がたくさんできました。これからもこの出会いを大切にしていきたいと思っています。私たちがつながることで、世界が少しだけ良くなると思います。